



研修報告

公認会計士と現代の働き方を考える—多様性とパーパスに焦点をあてて—研修会

DE&I研修会

テーマ：『公認会計士と現代の働き方を考える
—多様性とパーパスに焦点をあてて—』

開催日時：2023年3月11日（土）14：00～16：00

対象：会員・準会員



2023年3月11日（土）、業務委員会主催のDE&I研修会「公認会計士と現代の働き方を考える—多様性とパーパスに焦点をあてて—」が開催されました。メイン講師として文教大学経営学部専任講師 首藤洋志氏（神奈川県会会員）、パネリストとして本部DE&I担当常務理事 古谷大二郎氏、東京会D&I推進委員会調査研究グループ 佐伯麻里氏をお迎えし、業務委員会の河合がファシリテーターを務めさせていただきました。

確定申告時期の土曜であるにもかかわらず会場7名、オンラインでは、他地域会を含め30名が参加し、企業や組織活動での重要性の認識が高まっているダイバーシティやパーパス経営といったテーマへの関心の高さをうかがうことができました。

講義の中では、ダイバーシティ推進とパーパス経営は密接に関連しており、公認会計士業界に当てはめると、「信頼の力を未来へ」というタグラインが設定されていますが、監査業界では長時間労働が特に女性会計士のキャリア継続を困難にし、それにより監査法人

のダイバーシティ推進が遅れ監査品質を保持することが困難になる可能性がある、という解説がありました。参加者からも「日本はもともと島国かつ単一民族でダイバーシティが乏しい民族性であるのだからダイバーシティ推進に真剣に取り組まなければ意思決定の柔軟性や競争力がさらに低下してしまう」「かつて監査法人内のダイバーシティが著しく低く硬直的な組織であったことが不祥事の根底にあったのではないか」「法人のパーパスについては、掲げるだけでなく若い世代にもしっかり伝わり浸透させることにも注力すべき」等さまざまな意見が出ました。研修時間全体を通して当初の想定を超えるペースで質問やチャットへの書き込みをいただき、当協会の研修としては珍しい双方向型の研修となりました。

公認会計士のダイバーシティやパーパスといったテーマでは国内の研究事例がほとんどないとのことで、首藤会員の今後のさらなる研究に期待しております。
(業務委員会副委員長 河合 千尋)